



やまびこ

『呼吸器外科診療』と『やまびこ』に共通するもの

呼吸器外科

って、どんな外科だろう？これを読まれる方の大半はそう思われるかもしれませんが。呼吸器外科は比較的新しい診療科で、以前は胸部外科と言われており、心臓血管外科の先生方と一緒に働いていました。心臓血管外科は、文字通り心臓や大きな血管を対象とする診療科です。呼吸器外科は心臓、血管、食道以外の胸部疾患を担当します。呼吸器内科と連携して、診断と治療にあたります。呼吸器外科の診療対象疾患で多いものは、肺がん、気胸（ききょう）、膿胸（のうきょう）、縦隔腫瘍（じゅうかくしゅよう）など、一風変わったところでは多汗症（たかんしょう）も治療します。

文・呼吸器外科部長 仲田 庄志

一番多いのは肺がんの手術

少し肺がんのお話をします。ご存じの通り、肺がんはがんの中では死亡原因1位の疾患で、2019年は、1年間で75,394人（厚生労働省発表）の方が亡くなります。一方、新たにがんが発見されたと報告された方の数（専門的には罹患（りかん）数といいます）は、年間3位です。発見の報告は、他の部位のがんが多いのですが、死亡原因はがんの中で1位です。つまり、診断されたときに進行した状態で発見されることが多いという肺がんの特徴があります。無症状の方でも手術を勧めることがあります。できるだけ早い段階で対処したいと考える呼吸器系の医師の考えがあります。

2「できたら手術はしたくない」

呼吸器外科の外来に紹介される方のほとんどが、こう思いながら受診されています。その思いに耳を傾けながら、医学的に手術が必要なのか？しなくていいのか？を判断し、診療しています。無症状の方に全身麻酔の手術を受けていただくには、ご本人やご家族のご理解、ご納得が不可欠です。そのために、文字通り真摯（しんし）な態度で分かりやすく説明することを常に心掛けています。ご不明な点は、どんどんお気軽にお尋ねください。

3『やまびこ』と共通するものとは？

本誌は、患者さんのために作成した情報誌です。執筆者は毎回変わりますが、それぞれの立場で、当院に来られる方の事を思いながら作成しています。いくら正しいことが書かれていても、心に響く内容でなければ意味がありません。逆に、心の奥底まで届く内容であれば、厚い信頼が生まれます。

☑ Doctor's NOTE

呼吸器外科の診療で心掛けていること

- ①以前の病気だけではなく、日常の様子やご家族の治療経験などいろいろな話を伺う。
- ②患者さんの病状を正確に判定して、ご本人、ご家族に病状を伝える。
- ③医者として治療方法のメリット／デメリットを伝え、共通理解をする。
- ④慌てて結論を出さない。揺れる気持ちを理解する。

最後に、当科への受診を希望される方は、紹介状を持参いただくと診療がスムーズになります。また、ご家族の方も一緒にご来院いただきますと、より深い診療が可能になります。

皆さんの健康を考えると、お会いする機会はないに越したことはないのですが、もしお会いする機会がありましたら、その折は、何でも気兼ねなくご質問ください。





地域医療推進室・入退院支援センターのご紹介

大暑と言われるとおりの猛暑となりましたが、皆様この暑さに負けず過ごしておられますか？昨年 4 月より地域医療推進室・入退院支援センターで師長をしております赤坂と申します。これまで、3 階病棟、HCU、6 階東病棟（地域包括ケア病棟）で病棟師長を務め、その経験を地域医療推進室で活かせるよう、森田室長と共に看護師 7 名、ソーシャルワーカー 4 名、事務スタッフ 9 名と共に日々活動しています。

< 地域医療推進室のお仕事 >

さて、今回ご紹介する地域医療推進室では、主に以下の内容を担当しています。

- ① かかりつけの先生方からの紹介患者さんの受診、検査の予約。
- ② 連携医療機関との診療情報提供書（紹介状やお問い合わせのお手紙）のやりとり。
- ③ 急性期治療が一段落した方のかかりつけ医紹介。
- ④ 転院調整
- ⑤ セカンドオピニオン相談 などなど…

< 入退院支援センターのお仕事 >

地域医療推進室内に併設している入退院支援センターでは、入院治療が必要となった患者さんに、外来受診の時から入院支援担当の看護師がお話を伺うようにしています。おおまかなの流れは以下のとおりです。

- ① 入院が決定した日に入退院支援センターへお越しいただきます。
- ② 入院生活の流れを担当看護師から説明させていただきます。
- ③ ご連絡先や入院前の生活状況について確認させていただきます。
- ④ 入院に必要な物品について説明させていただきます。
- ⑤ わからないことや心配事はないかお伺いします。

なお、入院支援室で確認させていただいた内容は、入院された後に関わらせていただく退院支援担当者へお繋ぎします。つまり、入院生活を安心してお過ごしいただけるよう、また、退院後の生活に困ることがないように調整させていただくところが入退院支援センターです。

病院は「また来てくださいね」と言える場所ではありませんが、困った時にはまた神戸労災病院に来たいと思っていただけるような場所にしたいと思っています。スタッフと共によりよいサービスが提供できるよう、患者さん、ご家族に寄り添い、一緒に入院中、退院後の生活について考え、在宅サービス担当の方々との連携を図りたいとスタッフ一同心掛けています。

病院の 2 階正面玄関入って右側に地域医療推進室がありますので、何かお困り事がおありの際は、いつでもお気軽にご相談ください。

文・地域医療推進室・入退院支援センター師長 赤坂 友美

神戸労災病院広報誌

No.16

（令和3年8月1日発行）

T E L 078-231-5901

（発行者）

独立行政法人 労働者健康安全機構

神戸労災病院 院長 脇田 昇

〒651-0053

神戸市中央区籠池通4丁目1-23

URL <https://www.kobeh.johas.go.jp>

外来診療のご案内

受付時間：午前 8 時 15 分から午前 11 時 30 分

※ 初診時には、紹介状の持参をお願いいたします。
（持参のない場合は、選定療養費として別途 5,000 円がかかります。）